

二宮町総合戦略評価について（意見）

「第2期二宮町総合戦略」に係る取り組みの令和3年度の進捗について、町の内部評価を踏まえ、二宮町政策評価委員会として評価を行いました。9本の施策については、概ね順調であると評価できるものの、施設再編や子育て・教育、産業などの分野での取り組みの拡充を求める意見や、適正な評価を実施するための課題についての意見が見受けられました。第2期総合戦略の最終年度の取り組みや、新たな第3期総合戦略の策定に際し、本委員会の意見を参考に今後の地方創生に関する取り組みを推進していただければと思います。

各委員から様々な意見が出された中で、総論として、次の3点について、意見を述べさせていただきます。

1点目は、施策1-1に位置付けた新庁舎整備を含めた施設再編についてです。昨年度の意見書にも記載しましたが、新庁舎整備は町民の生命を守るために必要なものであり、大規模災害時も含めたライフラインの要でもあるため、早急に進めるべきです。推進にあたっては、過去の意見書や町側の説明のとおり、引き続き防災の視点だけでなく、福祉的視点も含めた行政サービスの充実や地域活性化等の視点も含めて説明し、町民の理解を得ながら公共施設の再配置を含めた「二宮町公共施設再配置・町有地有効活用実施計画」や「新庁舎・駅周辺公共施設再編計画」の考え方を町民に丁寧に説明し理解を得ながら、持続可能なまちづくりを行って進めてください。

2点目は、施策1-2、1-3に位置付けた地域活動についてです。地域では伝統や慣習により相互扶助の取り組みが行われてきましたが、高齢化や独居世帯の増加などの影響を踏まえ、取り組みやあり方そのものを見直す必要があります。特に日中に活動できる役員や消防団員を確保するため、時代に沿った形で女性の登用を進めたり、女性が参加しやすい環境を整えたり、中高生を含めた若い世代を巻き込む仕組みづくりを検討したりするなど、地域ごとの特性を踏まえた性別や年齢に関わらず幅広い町民の参画を促すアプローチが必要です。また、見直しにあたりつては、新しい施策やツールを導入するだけでなく、継続性やコストも考慮しを考慮しつつ、元々あった制度や取り組みの良さを再認識し、再活用するなどの意識も必要です各地域の歴史や特性を踏まえた検討が必要です。

3点目は、施策2-1に位置付けた特色ある教育活動の推進についてです。教育環境の充実は、子育て世代の大きな移住要因となり得ることから、町として時代の変化

に合わせた教育を行うために積極的な取り組みが必要となります。例えば、包括連携を結ぶ大学と協力しての大学生体験イベント実施や様々な分野で見識を有する方を講師として招き授業を行うなど、子どもたちが将来を豊かに楽しく過ごすための力を育てるため、特色ある教育について考え進めていくことが重要です。

④ 4点目は、施策や取り組みの進捗を確認する KPI の設定についてです。現在の KPI の設定では、施策の進捗が判断できなかつたり、ミスリードを招きかねないものがあったりするなど、課題が散見されます。統計資料のように必ずしも毎年把握できない数値や数値が把握しにくい成果など、取り組みによっては KPI の設定が困難なものがあることは認識するものの、様々な角度から成果を判断する複数の指標を設定し、より深く施策の進捗が評価できる数値目標を設定する必要があります。また、一般町民にも施策の目的と成果が理解できるよう、施策と取り組み、KPI がどのようにつながっているのかをよりわかりやすく表す工夫も必要です。施策の進捗状況进行评估するには不十分なものが見受けられます。適切な政策評価を行うためには、様々な角度から進捗状況进行评估する複数の指標を設定する必要があります。また、施策と取り組み、各 KPI の関連性を町民に対しより分かりやすく伝える工夫が必要です。

最後に、本委員会の全体の議論が、本戦略で掲げる取り組みだけでなく、変化し続ける時代に柔軟に対応しつつも、持続可能で魅力あるまちづくりに資するよう、次期総合戦略の策定や関連する他の計画や取り組みにおいても PDCA サイクルとして活用されることを期待しています。